

▶大阪青凌の中高六年一貫教育とは

人間の成長期である中学高校の六年間という長い時間を活用して、十全な人間的成長を図り、校訓「自主自律」の精神を涵養し、各々の将来において自他の敬愛のもとに有為な人間性を養うことを目標としています。中学と高校が接続している分、高校受験のための特別な準備がなく、一貫した教育方針のもとに様々な教育活動を展開しています。



▶大阪青凌の中高六年一貫教育イメージ

		第Ⅰ期		第Ⅱ期		第Ⅲ期	
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
クラス編成		英語・数学 ハイレベルクラス		特進Sコース：難関国公立大学クラス			
		英語・数学 スタンダードクラス		特進コース：国公立大学・難関私大クラス			
				進学コース：難関私大クラス			
		※その他の科目は同一クラスで実施					
指導方針	基礎的能力の養成期	発展的能力の拡充期		実践的能力の伸長期			
	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本の反復練習 ● 「やる気の芽」の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 早期の大学入試意識づけ ● 「先取り学習」の開始 		<ul style="list-style-type: none"> ● 入試演習の徹底 ● 「二次力」の完成 			
	<p>学ぶ喜び、学ぶ楽しさを実感させる。その土台となる基本的な生活習慣と学習習慣の確立を図り、学ぶことへの積極的な姿勢の習得をめざす。また、「人間的成長こそ学力の源」という指針に基づき、知・徳・体の調和を重んじる。</p>	<p>自分の将来像を探索し、夢や目標を具体的に定められるように早期の進路指導を行う。学習面では、予習して授業に臨む自主性、幅広い視野のもとに一人ひとりの興味を発掘し、自ら思考する力・表現する力を養成することをめざす。</p>		<p>自ら考え、自ら行動し、自分の目標を達成する力を育む。一人ひとりの目標に応じた大学受験指導、将来を切り開く進路指導を行う。また、自ら問いを立てて解決する力や、自分の考えを発表する力の更なる伸長をめざす。</p>			
キャリア教育	身近な課題に触れ、世界との「つながり」を知る。	現代社会における課題を考え、自らの考えを表現できる。		様々な「問題」のつながりに目を向け、課題解決を探究する。			
				Risingセミナー(目的・志望校別特訓)			
				Risingサポート(弱点克服・基礎固め学習)			
				Risingテスト(毎終礼の英語語彙テスト)			
				Risingキャンプ(学習合宿・中高交流会)			
				Risingタイム(朝礼前「朝学習」)			
				Risingノート(生活習慣・家庭学習の定着)・Risingダイアリー(手帳の活用→時間管理→自主自律)			
	英語プレゼンコンテスト						
		海外研修	職業別ガイダンス	修学旅行			
	民泊体験		文系・理系ガイダンス	学部・学科ガイダンス	大学ブース別ガイダンス		
	職業体験	大学訪問	オープンキャンパス参加				
	総合的な学習の時間:グローバル人材の育成						

教科別 六年一貫の流れ 国語科

	第Ⅰ期(中1→中2)	第Ⅱ期(中3→高1)	第Ⅲ期(高2→高3)
各期の位置づけ	<p>基礎学力育成期</p> <p>自我に目覚めるこの時期は、国語教育にとって最も重要な時期と位置づける。すなわち、言語活動が具体的な世界から抽象的な世界まで一挙に広がることに応じて、情感と思考の領域をより高次に育成することを目指す。第Ⅰ期では、国語力の基盤となる「読む」、「書く」、「聞く・話す」の3領域の言語活動を通じて、「考える力」「感じる力」を育成し、自己の世界を広げようとする。</p>	<p>学力充実期</p> <p>この時期は社会の変化に主体的に対応できる力を養成することを目標とする。すなわち、自己のまわりに広がる世界を正しく理解し、それを批判的にとらえられる能力を養い、自分を伝達できる言語能力を育てる。第Ⅱ期では、『ことば』を的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。同時に、思考力や想像力を伸ばし、情操を豊かにし、古典から現代に至る、言語文化に対する関心を深める。言語が人間性を養い、将来にわたって「生きる力」を育む源をであることを理解させる。</p>	<p>学力発展期</p> <p>自己を取り巻く社会生活や将来への展望について広い視野でとらえ、自主自律の精神で問題を解決し、自ら発信できる言語能力を育成する。第Ⅲ期では、将来の進路選択や自立に備えて自己を確立し、自己を表現する能力を養うために、より実践的な演習をおこなう。とりわけ時事的要素の強い文章を要約したり、グループ討論などを通じてプレゼンテーション能力を高める。また古典については、新出の文章を自力で読解できるようにする。</p>
	到達点	<p>①教育漢字・常用漢字のすべての言語について着実に定着させる。</p> <p>②教科書の文章はもちろんのこと、その他の著作についても幅広く紹介し、論理的思考や豊かな情操を育むようにする。そのため、年間の読書20冊を達成する。</p>	<p>①「現代」という時代をさまざまな角度から見られるような言語能力を養成する。</p> <p>②大学入試の土台となる古典文法、漢文句形の全範囲を体系的に修得する。</p>
育成すべき力と指導方針①	<p>開講科目：中1 国語</p> <p>【育成すべき力】 目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考慮しながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を養う。また目的や意図に応じ、構成を考えた的確に書く能力、および様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身につけさせる。</p> <p>【指導方針】 ①小学校配当および中1・中2配当漢字の演習により漢検4級の取得を目指す。 ②教科書素材および演習素材を活用し、読解力の土台づくりをおこなう。 ③作文や読書感想文コンクール等を通じて、表現力を養う。 ④口語文法の基礎基本を理解させる。 ⑤古文・漢文の文章に慣れさせる。 ⑥読書活動を定着させる。</p>	<p>開講科目：中3 国語</p> <p>【育成すべき力】 現代の生活の中で必要とされる基礎的・基本的能力としての理解力や表現力、思考力や想像力を養う。また目的や意図に応じ、論理の展開を工夫して書く能力、および文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身につけさせる。グループワークなどを通じて、相手や場に応じて話すこと、課題の解決に向けて話し合うことに取り組ませる。</p> <p>【指導方針】 ①中3配当漢字および常用漢字の演習により漢検準2級の取得を目指す。 ②教科書素材および演習問題集を活用し、読解力・記述力を育成する。 ③作文や読書感想文コンクール等を通じて、表現力を養う。 ④口語文法の反復演習および文語文法の基礎を学ばせる。 ⑤古典の読解を深め、その文学的背景を考えさせる。 ⑥古語150個程度を修得させる。 ⑦読書活動や日本語ディクテーションを通じて、言語処理能力を養う。</p>	<p>開講科目：高2 現代文</p> <p>【育成すべき力】 現代の複雑多様な言語生活に対応する力を育てるために、近代以降の様々な文章を的確に読解し、ものの見方、感じ方、考え方を深める。また、自らの考えを目的に合わせて表現する能力を高める。また、進んで読書することで、様々な世界や考えに触れさせ、人生を豊かにする素地を育てる。</p> <p>【指導方針】 ①様々なジャンルのテキストに触れる機会を設ける。 ②テキストの構成を意識しながら読み、分析的に理解する力を養う。 ③目的や課題に応じ、様々な手法を用いて表現する機会を設ける。 ④上記①～③を通して考えを広げ、様々な考えに共感する力を養う。 ⑤社説やコラムの要約演習で文章力を養成する。</p>
	育成すべき力と指導方針②	<p>開講科目：中2 国語</p> <p>【育成すべき力】 目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて、立場や考えの違いをふまえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を養う。また目的や意図に応じ、構成を工夫しわかりやすく書く能力、および文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め、効果的に活用させる能力を身につけさせる。</p> <p>【指導方針】 ①中2・中3配当漢字の演習により漢検3級の取得を目指す。 ②教科書素材および演習素材を活用し、読解力の定着をはかる。 ③作文や読書感想文コンクール等を通じて、表現力を養う。 ④口語文法の大部分を習得させる。 ⑤古典常識に慣れ、理解を深める。 ⑥読書活動を通じて、想像力を養う。</p>	<p>開講科目：高1 国語総合</p> <p>【育成すべき力】 現代の生活を営み、教養ある人間を形成し、また言語文化を享受するために必要な基礎的・基本的な国語能力を養う。その中で「言葉で伝え合う能力」の育成や「我が国の言語文化」にふれて感性や情緒を育む。</p> <p>【指導方針】 ①言語文化としての国語の持つ正しさ・美しさを認識させる。 ②合理的思考力や場に応じた理解力と想像力、的確な判断力・表現力を育てる。 ③古典や現代の価値ある文章を学習することを通じて、人間や社会の真実の姿を見つめさせる。 ④読書活動や日本語ディクテーションを通じて、言語処理能力を養う。</p>
育成すべき力と指導方針③	<p>開講科目：高1 古典講読(古典A)</p> <p>【育成すべき力】 古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統や文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ素地を育てる。</p> <p>【指導方針】 ①古文や漢文の文章を味わいながら音読、朗読を通して古典的世界を体現させる。 ②古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉のつながりを理解させる。 ③古典にあらわれた思想や感情を読み取り、それについて考察させる。 ④さまざまな時代の人々の生き方や感じ方について理解を深めさせる。 ⑤大学入試に対応して、語彙力・読解力を高める。</p>		<p>開講科目：高3 国語演習(I・II)</p> <p>【育成すべき力】 中学1年～高校2年までで培った国語力を活用し、センター試験(マーク式)や国公立2次試験(記述式)などの入試に対応できる問題読解力および問題解答力を養成する。</p> <p>【指導方針】 ①徹底したセンター試験対策演習をおこなう。 ②国公立2次試験を意識した記述問題演習をおこなう。 ③難解な文章を理解するための論理的思考力を育成する。 ④Risingタイム(朝学習)での速読演習において、問題処理能力を高める。</p>

教科別 六年一貫の流れ 社会科

	第Ⅰ期(中1→中2)	第Ⅱ期(中3→高1)	第Ⅲ期(高2→高3)
各期の位置づけ	基礎学力育成期	学力充実期	学力発展期
到達点	社会科では、人間が形成する社会のしくみを理解させることを目的として六年一貫教育をおこなう。第Ⅰ期では、人間が生きる現代社会のしくみを学ぶ前提として、その地理的要因(地球上での位置に起因する自然環境の違いが、今の社会にどのような影響を与えているのか)、歴史的要因(現代までに展開された人の歴史が、今の社会にどのような影響を与えているのか)の基礎を習得させる。	社会科では、人間が形成する社会のしくみを理解させることを目的として六年一貫教育をおこなう。第Ⅱ期の前半(中3)では、第Ⅰ期に習得した「現代社会の地理的・歴史的要因」を踏まえて、人間が生きる現代社会のしくみを構造的に理解させる。後半(高1)においては、中学で学んだ基礎のうち、近代から現代にいたる歴史的要因に焦点を当て、現代社会が成立した経緯を世界と日本の両面から深く考察させる。また、歴史を深く読み解くことにより、論理的思考力を養う。	社会科では、人間が形成する社会のしくみを理解させることを目的として六年一貫教育をおこなう。第Ⅲ期では、第Ⅱ期に習得した近現代史の理解を土台として、そこにいたるまでの歴史的背景を学び、後半には演習を中心として、専門的な領域まで理解を深める。また、中学で培った学習内容を土台として、地理・公民分野についても、講義・演習を通して専門的な領域まで理解を深める。
育成すべき力と指導方針①	開講科目:中1 社会 【育成すべき力】 中学2年で学習する歴史分野、中学3年で学習する公民分野を学ぶ前に、なぜそのような歴史が展開されたのか、なぜそのような現代社会が展開されているのかについて、地理的要因を考察するための土台づくりをする。また、高校2・3年の選択科目である地理演習の前提となる、基礎的な読解力や思考力を育成する。 【指導方針】 基本事項は徹底的に反復して習得させる。同時に、授業・課題・テストを通して、グラフ・図表などの資料を読み解く経験を積ませ、自分なりの答えを導き出すトレーニングを積ませる。	開講科目:中3 社会 【育成すべき力】 中学1・2年で学んだ現代社会の地理分野・歴史分野を背景として、どのような現代社会ができたのかという公民分野を学び、高校において高度な考察をするための土台を完成させる。また、高校2・3年の「現代社会、倫理、政経」学習の前提となる基礎学力を身につけさせる。さらに、年度末にプレゼン大会をおこない、探究心や主体性を養う。 【指導方針】 基本事項は徹底的に反復して習得させる。さらに、授業・課題・テストを通して、グラフ・図表などの資料を読み解く経験を積ませ、全体の文脈の推理から自分なりの答えを導き出すトレーニングを積ませる。	開講科目:高2・3 世界史B・演習/日本史B・演習 高1での近現代史学習を通じて、現代社会が歴史的な影響を受けて成り立っていることを知ったことを土台として、あらためて人類の歴史が始まって以来、どのように現代社会へつながっているのかについて理解させる。授業の具体的な内容としては、通史授業では歴史的な流れを順序立てて学習し、演習授業において既習内容の理解を深めることで、国公立大学の個別試験(論述形式)にも対応し得る力を育成する。 ※なお、世界史か日本史かについては、1年次の末に選択する。
育成すべき力と指導方針②	開講科目:中2 社会 【育成すべき力】 中学3年で学習する公民分野を学ぶ前に、なぜそのような現代社会が展開されているのかについて、歴史的要因を考察するための土台づくりをする。また、高校1年の必修科目である世史・日史の前提となる、基礎的な知識や思考力を育成する。 【指導方針】 基本事項の定着のうえで、単元ごとに歴史的な流れを大局的に把握したり、図表・史料などを読解したりする経験を積ませ、歴史的な考察から自分なりの答えを導き出すトレーニングを積ませる。	開講科目:高1 世界史A/日本史A 【育成すべき力】 中学で学んだ基礎を土台として、近代から現代社会にいたるまでの歴史的背景について考察させ、世界・日本相互の視点から歴史を眺めることで、現代社会の歴史的背景を立体的に理解させる。 【指導方針】 暗記事項については、期限内に学習を終えさせることで、意志の強さと計画性を身につけさせる。また、授業・課題・テストを工夫し、歴史的な事象の因果関係や歴史の流れを理解させて、自身の言葉で論理的に説明できる力を養う。なお、世界史Aについては、近現代史を中心としながら、後半には古代史の導入もおこなう。	開講科目:高2・3 地理演習 中学で学習した地理分野の基礎を土台として、講義および問題演習を通して、自然地理、人文地理を専門的に学習する。授業の具体的な内容としては、高2から高3の1学期にかけて高校地理を一通り学び、そのうえで高3の2学期に演習を中心とした授業により既習内容の理解を深めることで、大学受験にも対応し得る力を育成する。なお、実力育成の方向性としては、マークセンス方式に対応できるだけの理解力を身につけさせる。 ※なお、地理を選択するか否かについては、1年次の末に選択する。また、地理選択者のうち、最終的に公民か地理のどちらを選択するかについては、2年次の末に選択する。
育成すべき力と指導方針③			高2・3 現代社会(政経分野中心) /政経演習/倫理演習 中学で学習した公民分野の基礎を土台として、高2段階では政治経済分野を中心に現代社会を学び、高3段階で演習授業(政経演習)を中心に理解を深め大学受験にも対応し得る力を育成する。また、生徒が希望する進路の受験方式に合わせて、倫理分野の学習を兼ねる授業(倫理演習)も開講しており、その場合は政治経済分野の演習と並行して倫理分野の学習・演習を進めてゆき、大学受験に対応し得る力を育成する。なお、実力育成の方向性としては、マークセンス方式に対応できるだけの理解力を身につけさせる。 ※なお、演習授業のうち、政経か倫理かの選択については、2年次の末に選択する。

教科別 六年一貫の流れ 数学科

	第Ⅰ期(中1→中2)	第Ⅱ期(中3→高1)	第Ⅲ期(高2→高3)
各期の位置づけ	<p>基礎学力育成期</p> <p>この期間の目標は、これから学ぶ数学という学問にとって欠かせない基本的な姿勢を養うことである。基本的な計算を通して数的条件反射の練習をさせ、数的処理能力の錬成につなげる。どの学年においても、授業内での演習および家庭学習での演習を大切に、学力の定着をより確かなものにさせる。</p>	<p>学力充実期</p> <p>この期間の目標は、中学内容と高校内容の橋渡しを担っており、とても重要な時期である。中3内容は高1内容とのつながりが非常に強いので、中3生に対しては高校内容を、高1生には中学内容を意識させ、スパイラルな学習を目指す。数的処理能力にさらに磨きをかけるとともに、論理的思考の訓練をおこなう。</p>	<p>学力発展期</p> <p>この期間では、高校数学の集大成とも言える数学Ⅲの微分積分をマスターさせることを念頭に置き、ベクトルや数列といった今までにはなかった数学も踏まえながら、論理的思考力を身につけ、さらにそれをアウトプットする力を養う。</p>
	到達点	<p>中1の段階で、中2の内容の式の計算および連立方程式までを理解できる。中2の段階で、中3の内容の式の展開、因数分解および平方根までを理解できる。</p>	<p>中3の段階で、中学の内容終了後に数学Ⅰの内容に入り、第1章数と式および第2章二次関数のグラフまでを理解する。高1の段階で、数学Ⅰの内容に加え、数学Ⅱの複素数と方程式までを理解する。また、数学Aの内容に加え、数学Bの平面ベクトルの内積までを理解する。</p>
育成すべき力と指導方針①	<p>開講科目：中1 数学</p> <p>【育成すべき力】 数を正の数と負の数まで拡張し、数の概念についての理解を深める。また、文字を用いることや方程式の必要性和意味を理解させるとともに、数量の関係や法則などを一般的にかつ簡潔に表現して処理したり、一元一次方程式を用いたりする能力を培う。平面図形や空間図形についての観察、操作や実験などの活動を通して、図形に対する直感的な見方や考え方を深めるとともに、論理的に考察し表現する能力を培う。また、具体的な事象を調べることを通して、比例、反比例についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。さらに、目的に応じて資料を収集して整理し、その資料の傾向を読み取る能力を培う。</p> <p>【指導方針】 Risingタイム(朝学習)を利用して、計算の反復練習をおこない、確かな計算力を身につけさせる。また、授業内では、授業内容の小テストをおこない、教科書内容の定着を図る。</p>	<p>開講科目：中3 数学</p> <p>【育成すべき力】 数の平方根について理解し、数の概念についての理解を深める。また、目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を伸ばすとともに、二次方程式について理解し用いる能力を培う。図形の相似、円周角と中心角の関係や三平方の定理について、観察、操作や実験などの活動を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。また、具体的な事象を調べることを通して、関数「$y=ax^2$」について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を伸ばす。さらに、母集団から標本を取り出し、その傾向を調べることで、母集団の傾向を読み取る能力を培う。</p> <p>【指導方針】 Risingタイム(朝学習)を利用して、計算の反復練習をおこない、確かな計算力を身につけさせる。また、授業内では、授業内容の小テストをおこない、教科書内容の定着を図る。</p>	<p>開講科目：高2 数学Ⅱ・数学B</p> <p>【育成すべき力】 いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数、微分・積分、数列およびベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>【指導方針】 文系クラスに対しては、授業の中でセンター試験を意識して進める。授業内容終了後はセンター試験を視野に入れながら、ⅠAⅡBの演習をおこなう。</p> <p>理系クラスに対しては、演習量を確保しながらも、一定の進度を保ち、3学期からは数学Ⅲの内容に入る。</p>
	育成すべき力と指導方針②	<p>開講科目：中2 数学</p> <p>【育成すべき力】 文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を養うとともに、連立二元一次方程式について理解し用いる能力を培う。基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験などの活動を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の必要性和意味およびその方法を理解し、論理的に考察し表現する能力を養う。具体的な事象を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。不確定な事象を調べることを通して、確率について理解し用いる能力を培う。</p> <p>【指導方針】 Risingタイム(朝学習)を利用して、計算の反復練習をおこない、確かな計算力を身につけさせる。また、授業内では、授業内容の小テストをおこない、教科書内容の定着を図る。</p>	<p>開講科目：高1 数学Ⅰ</p> <p>【育成すべき力】 数と式、図形と計量、2次関数およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する力を育む。</p> <p>【指導方針】 授業内で積極的に問題集や参考書の問題を扱い、演習量を確保する。定期的に問題集の課題を課す。毎日数学に取り組む姿勢をつくるために、『チャート』の予定表を作成し、配布する。原則として週に1回ノートを提出させ、確認する。</p>
育成すべき力と指導方針③		<p>開講科目：高1 数学A</p> <p>【育成すべき力】 場合の数と確率、図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</p> <p>【指導方針】 授業内で積極的に問題集や参考書の問題を扱い、演習量を確保する。定期的に問題集の課題を課す。毎日数学に取り組む姿勢をつくるために、『チャート』の予定表を作成し、配布する。原則として週に1回ノートを提出させ、確認する。</p>	<p>開講科目：高3 数学センター演習・数学演習</p> <p>【育成すべき力】 センター試験の対策、入試問題演習により、大学入試問題に対応できる力を養う。</p> <p>【指導方針】 各系統の大学入試に即応した問題演習をおこなう。</p>

教科別 六年一貫の流れ 理科

	第Ⅰ期(中1→中2)	第Ⅱ期(中3→高1)	第Ⅲ期(高2→高3)
各期の位置づけ	基礎学力育成期	学力充実期	学力発展期
到達点	自然に対する関心を高め、自然の事物、現象の理解を深める。観察・実験技能を高める。実験室の使い方や器具の基本的な使い方を習得させ、修得した知識を家庭学習で演習をおこなうことで定着させる。また、家庭学習をおこなうことを習慣づける。	第1期で学んだ分野をさらに深く理論的に学び、第3期を迎える準備をおこなう。実験を通して、課題から問題の解決までの導き方を身につけ、またレポートの書き方を修得し論理的に考え、説明する力をつける。	一人ひとりの個性と将来への目標に合わせて自ら学習する姿勢を持たせるようにする。自ら問題設定をおこない、理解・解釈・分析・記述及び表現する力を伸ばし、積極的に自ら学び続ける「自発的な学び」を探究させる。また、センター試験はもちろん、その他の入試にも十分対応できるように知識の定着と問題を解く力の養成を図る。
育成すべき力と指導方針①	<p>開講科目:中1 理科</p> <p>【育成すべき力】 身の周りの自然や現象に直接触れ、その不思議や面白さを知り、観察・実験を通してその中に含む規則性や法則を理解させることで、科学的自然観を養う。また、中2、中3で習う科学現象を理解するための基礎力を養う。</p> <p>【指導方針】 ①教科書や映像に留まらず、植物の採集などの身近な自然現象に触れながら、自然の法則・概念を理解させることによって、身の回りで起こる科学現象に興味を持たせ、考えさせる。 ②学んだことを定着させるために、日々の学習を課題として取り入れ、復習する習慣をつけさせる。また、日々の積み重ねることが大きな力となることを実感させ、出来る喜びを体験させる。 ③中2で課題研究をおこなわせるための準備期間とし、実験を通して課題を発見・解決する力を培う。 ④生物では「植物」、化学では「身近な物質」、物理では「力、音、光のエネルギー」、地学では「地震」を扱う。</p>	<p>開講科目:中3 理科</p> <p>【育成すべき力】 科学的知識を深めることにより、さらにその先にある疑問に遭遇させ、知的好奇心を獲得させる。また、それぞれの分野(物・化・生・地)とのつながりを考え、現代社会で問題とされている課題について科学的に考える力を養う。</p> <p>【指導方針】 ①中学分野だけに留まらず、発展分野から、高校で習う内容の先取り学習をおこなう。 ②高校進学準備として、化学分野・物理分野の復習をおこなう。 ③生物では「生命の持続性」、化学では「イオン」、物理では「運動、仕事、エネルギー資源」、地学では「天体」、環境では「自然と人間」を扱う。</p>	<p>開講科目:高2・高3(理系) 物理/化学/生物</p> <p>【育成すべき力】 これまでに身に付けた法則や原理を応用することによって、世の中の科学現象を説明できるようにする。また、大学入試問題に対応する力や、大学で研究するための土台をつくらせる。</p> <p>【指導方針】 第2期で得た基礎学力をもとに、より専門的な内容を各科目分野に分けて学び、自分の将来に向けての学問を選択できるようにする。また、高3の1学期に全ての範囲を終了させ、後半からは考えて、想像して解く力を身につけさせる。なお、難題に関しても、自分の知識に基づき解決していく姿勢を身につけさせる。</p>
育成すべき力と指導方針②	<p>開講科目:中2 理科</p> <p>【育成すべき力】 中1で培った科学的自然観を発展させ、考える力、想像する力を養う。また、グループで協力し、今ある知識をもとに、研究・発表をする力を養う。一つの課題について深く考え、様々な角度から考える力をつけさせる。</p> <p>【指導方針】 ①学んだことを定着させるために、日々の学習を課題として取り入れ、復習する習慣をつけさせる。また、出来る喜びを体験させる。 ②中1・中2で培った知識をもとに、グループで課題研究をおこなわせる。 ③教科書発展内容をベースに、高校で習う内容まで触れる。 ④三角形の相似や三平方の定理など、必要な数学の知識を習得させる。 ⑤生物では「動物」、化学では「原子、分子、化学変化」、物理では「電流のエネルギー」、地学では「天気」を扱う。</p>	<p>開講科目:高1 物理基礎/化学基礎/生物基礎</p> <p>【育成すべき力】 第1期、第2期前半で修得した分野を意識させ、さらに深く追究する。また、第3期に修得する専門的な内容に取りかかるための基礎学力をつける。さらに、文章から現象を理解し、想像、表現する力を養う(読解力・想像力)。</p> <p>【指導方針】 ①中学で習得した知識を踏まえ、科学的な知識の基礎的な素養を養い、より深く学ぶことでさらに興味関心を持ち続けさせる。 ②文理選択、教科選択を考慮し、社会現象などと絡めた内容を扱い、文理関係なく興味を持たせる。 ③化学では、化学現象を説明するための基礎学力をつけさせる(理論分野「原子、イオン、化学変化」)。物理では、物理学の軸となる考え方を身につけさせる(力学「物体の運動、エネルギー」)。生物では、生命を扱うための基本的知識を身につけさせる(「生物の特徴、遺伝子」)。</p>	<p>開講科目:高2・高3(文系) 物理演習/化学演習/生物演習</p> <p>【育成すべき力】 第1期、第2期で得た知識を演習を繰り返すことで定着させ、実社会と教科書の内容をつなげ、自分の言葉で表現する力を養う。また、現象の根本を理解させ、入試に対応できる力を育成する。</p>
必要な数学的知識	比例のグラフ 比 割合	三平方の定理 相似 指数の計算 三角関数・三角比 微分・積分	微分積分 対数

教科別 六年一貫の流れ 英語科

	第Ⅰ期(中1→中2)	第Ⅱ期(中3→高1)	第Ⅲ期(高2→高3)
各期の位置づけ	<p>基礎学力育成期</p> <p>様々な活動を通して、外国語を学ぶ楽しさや、使える喜びを実感させ、中学校指導範囲内の基本事項習得させる。6年先を見据え、「英語の核」とも言うべき単元の徹底演習をおこない、課題等を通して英語力の土台を完成させる。</p> <p>① 基本単語(動詞・名詞・形容詞等)の理解・習得 ② 基本英文法の理解・習得 ③ 教科書本文の理解・暗唱</p> <p>※海外研修に向けての準備(→総合英語・総合学習とのリンク)</p>	<p>学力充実期</p> <p>第Ⅰ期で習得した英語力の演習を通して基礎固めをおこなうとともに、高校英語の「先取り学習」を開始し、第Ⅱ期終了時点で、高校で必要となる英文法の土台を完成させる。</p> <p>① 中学指導範囲内の演習と先取り学習 ② 高校指導範囲内の基本事項の習得 ③ 英語表現の基本例文の理解・暗唱 ④ 高校標準レベルの語彙習得 ⑤ 高校標準レベルの読解力の養成</p>	<p>学力発展期</p> <p>これまでに習得した英語力を駆使して、センター試験から国公立二次試験対策までをおこなう。また、様々な形式の読解を通して、それについてのディスカッションをおこない、時事問題や社会問題等を英語で考える力を養う。</p> <p>① 表現指導を通じた文法の徹底演習 ② 難関大レベルの読解力の育成 ③ 内容についての議論 →「クリティカルシンキング」の育成</p> <p>※スキルのみならず、何のために学ぶのかを重視し、人との関わり・自己理解も大切にさせる。</p>
到達点	<p>発音とスペルに十分留意しながら、動詞の活用を中心に、中学指導範囲内の基本単語・熟語を暗記できている。また、本文や例文の暗唱を通じて、「使える形」の文法を習得する。さらに、ネイティブの授業(英語B)やスピーチコンテスト、寸劇の準備等の経験を重ね、英語に慣れ親しむ姿勢を養い、コミュニケーションツールとしての英語を自覚し、グローバル社会を生きるための力の土台が完成する。英検3級以上を取得する。</p>	<p>高校英文法・語彙の基本が習得できており、教科書レベルの内容であれば初見であってもその要旨を自力でつかむことができる。また、内容に関して賛成や反対といった「自分の考え」を英語で表現することができる。英検準2級以上を取得する。</p>	<p>全員が高校指導範囲内の英文法・単熟語を高2までに習得する。それらを用いて、読解やリスニングのテーマを自分の力で正しく理解することができる。また、その内容について常に「クリティカルに」考えることができ、自身の考えを論理的に述べるができる。具体的には、英検2級以上、センター試験160点以上を目指し、京阪神合格10名、市府教大レベル合格10名を達成する。</p>
四技能の育成	<p>教科書では短い会話を通して、英語を使うシーンごとに必要な表現や文法を学ばせる。インプット・アウトプットのバランスに留意し、グループワーク等を通して、自分のことを表現することやコミュニケーションの相手や対象となるものを英語で理解する経験を積ませる。その理解力を深め、応用力を高めるために、『新中学問題集(発展)』レベルの読解問題を活用する。</p>	<p>単語や文法の補助を与えながら、標準(教科書)レベルの英文であれば、全体の趣旨をつかめるようにする。第Ⅱ期では、標準レベルの語彙習得と高校英文法の完成を最優先させ、その習得した項目を無理なく確認できるレベルの読解を進める。多く読むこと、速く読むことに重きを置く。また、高校では進研模試の対策を適宜おこない、ハイレベルな精読の指導についても並行して進める(模試ノートの活用)。</p>	<p>教科書の内容理解を中心に進めるが、文法や語彙の確認にとどまらず、その題材に関する自分の意見や考えを述べられるようにすることで、「ひとつ上のリーディング力」を養う。高3でも教科書を使用するが、さらにデータの正確な読み取りといった専門的な内容まで扱う。また、高2の後半より授業内でセンター試験対策を進め、重要構文については和訳もおこない、二次記述力の準備も意識させる。難関大の和訳演習については主に放課後セミナー内でおこなう。</p>
リスニングの育成	<p>教科書の会話文や単語帳の例文等の理解の際には、必ずCDを用いて英語の音に慣れさせる。また、頻度の高いクラスルーム・イングリッシュについてはプリント等で覚えさせ、簡単な指示については基本的に英語で進めるようにし、日常的に英語を聞く環境に慣れさせる。英検の受験の際には、朝礼前や放課後の時間等も活用し、リスニング問題の練習をおこない、モチベーションアップを図る。</p>	<p>語彙の助けがあれば、教科書の内容の大枠をつかむことができるようにする。ディクテーションを授業や課題等においても恒常的に実施する。聴くこと・書くこと・理解することの一体的学習を進める。</p>	<p>Risingタイムと連携してディクテーションを開始し、授業や課題等においても恒常的に実施する。聴くこと・書くこと・理解することの一体的学習を進める。センター試験のリスニング問題を活用する。</p>
ライティングの育成	<p>ペンマンシップを活用して、アルファベットの習得を確実に進め、英文を正しく書けるようにする。教科書のグループワークや文法項目の演習・課題については、常に十分な量を記述させる。特に高校でも様々な観点で必要となる動詞の活用については、徹底した反復演習をおこなう。また、基本例文の理解・暗唱を通して、英作文の土台を完成させ、自分自身のことや簡単なトピックについて英語で書けるようにする。</p>	<p>中学英文法の徹底演習をおこなうとともに、高校文法(基本レベル)の先取り学習を進める。中学英文法の単元ごとに、「プラス・アルファ」の形で高校英文法入門のプリント演習を導入する。(高校では異なる単元配列なので、「スパイラル方式」で理解を深める形を狙う)また、スピーチコンテストの原稿作成を通して、「自分の考え」について英語で書かせる。基本例文の理解・暗唱を通して、英作文の土台を完成させる。</p>	<p>与えられた日本文について、既習の文法項目や語彙を用いて適切に英訳することができ(基本例文の暗唱→演習)、読解の題材等に対する自分の考えを英語で表現することができるようにする。適切な添削指導をおこない、英作力の徹底強化を図る。</p>
スピーキングの育成	<p>教科書の内容理解を深めるために、授業や課題等においてパートごとに音読を繰り返し、暗唱させる。暗唱テストも適宜行い、スピーキング力の土台をつくらせる。また、各レッスンの内容や文法項目に関して、グループワークをおこない、簡単な自己紹介や他己紹介を英語でできるようにする。さらに、寸劇やスピーチコンテスト等の準備を入念に行い、本番に成功することで「英語を使うこと」に自信を持たせる。</p>	<p>教科書の内容理解を深めるために、授業や課題等においてパートごとに音読を繰り返し、暗唱させる。暗唱テスト(→レシテーションコンテスト)も適宜おこない、スピーキング力の土台をつくらせる。さらに、巻末のコンプリヘンションやスピーチコンテストの準備等に積極的に取り組み、「自分の考え」を英語で伝え、相手の意見を英語で理解させる。</p>	<p>教科書の内容理解を深めるために、授業や課題等においてパートごとに音読を繰り返し、暗唱させる。暗唱テスト(→レシテーションコンテスト)も適宜おこない、スピーキング力の土台をつくらせる。さらに、巻末のコンプリヘンションやスピーチコンテストの準備等に積極的に取り組み、「自分の考え」を英語で論理的に伝え、相手の意見を尊重することができるようにする。</p>